



### 博報堂DYグループのCSR

2014年「博報堂DYグループCSR委員会」を博報堂DYホールディングスに設立し、私が委員長に就任するとともに、博報堂DYグループ初のCSRレポートを刊行しました。

2014年度版CSRレポートに対しては、ステークホルダーの皆様より、貴重なご意見を頂戴することができたとともに、当社グループ社員にとっても自社グループのCSR活動に対する認識を新たにし、自らの仕事、CSRアクションを見つめ直すよい機会となりました。

博報堂DYグループCSR委員会の役割は、いままでグループ各社それぞれで進められてきたCSRをグループ全体で共有し、より多くの社員の意識を高めること。そしてこれらのアクションを社会に積極的に開示し、上場企業としての責任を果たしていくことです。

生活者、社会の刻々と変化する課題を解決し、新たな価値を提供していくことによって、生活者、社会の中に新しい幸せを生み、つなげ、ともに広げていくこと。これが当社グループが目指すCSRの基本理念です。

2015年6月1日より適用開始されました「コーポレートガバナンス・コード」についても、定時株主総会において2名の社外取締役を選任するなどの、コーポレート・ガバナンス強化対策を図っており、今後も中長期的な企業価値向上に取り組んでまいります。

株式会社博報堂DYホールディングス  
代表取締役社長  
(博報堂DYグループCSR委員会 委員長)

戸田 裕一

戸田 裕一

## 生活者発想とパートナー主義

当社グループは設立以来「生活者発想」と「パートナー主義」をポリシーとして掲げてきました。

「生活者発想」とは私たちの発想の原点であり、人々を、単に消費の対象である「消費者」として捉えるのではなく、社会の中で自らの生活を主体的に組み立てている「生活者」として捉え、生活者を深くまるごと洞察し、理解することで、新しい価値を創造していくという考え方です。「生活者発想」では「それは生活者にとって、ほんとうに善いことか」という問いかけが極めて重要になっています。生活者の集合が社会であり、「それは社会にとってほんとうに善いことか」という問いでもあります。

「パートナー主義」とは私たちのビジネスの原点です。常に生活者視点に立ってパートナーである顧客、媒体社のビジネスを見つめることにより、長期的な関係を築き、継続性のあるソリューションを提供していくという考え方です。

生活者発想とパートナー主義は、私たちグループのCSR活動の基盤となっています。

## Advanced CSR と Basic CSR

本レポートでは、当社グループならではの積極的なCSRアクション“Advanced CSR”と、CSRの基盤となるアクション“Basic CSR”を紹介しています。

Advanced CSRは、グループ社員一人ひとりが自らの仕事をCSR視点で見つめ直すことから生まれた「日々の仕事を通じて取り組む」。そして社員一人ひとりが持つ

いるナレッジやスキルを活かした「クリエイティブの力を活かす」「伝える力を活かす」「一人ひとりの個性で動く」という当社グループ独自の4つのカテゴリで構成されています。

「自分の仕事は社会的責任を果たしているか?」「もっと社会のためにできることはないか?」社員一人ひとりが主体的に考え、生活者、社会の渦の中に飛び込み、新たな渦をつくりだし、動かしていくことによって生まれたソーシャルアクション、それが当社グループのAdvanced CSRです。

Basic CSRは、当社グループに求められる基本的な社会責任を遂行するものです。国連グローバル・コンパクト(GC)の10原則、そして国際規格であるISO26000の7つの中核主題に従ってCSRの基盤となるアクションを整理し実践しています。

## 社員一人ひとりの志のもとに

博報堂DYグループは、「生活者発想」と「パートナー主義」というグループポリシーのもと、グループ各社社員一人ひとりが志を持って、クリエイティビティ、知見や技術、行動力によって、より積極的に、柔軟にCSRを継続進化させ、社会的責任を果たしてまいります。

ステークホルダーの皆様には当社グループのCSRに対するご意見、ご要望をお寄せいただきますようお願い申し上げます。